

# 学び舎通信

## 貴重なお話が聞けました

昭和20年8月15日。7時31分に空襲警報が解除されて44分後、広島で原子爆弾が投下されました。ようやく朝の落ち着きを取り戻した頃に落とされた一発の爆弾が。で、数十万人の命が失われました。

私は二度広島を訪問しました。一度目の訪問したのは高校の修学旅行。原爆ドームをバックに撮った写真が残っています。平和祈念資料館の展示物の記憶も残っています。平和祈念公園では、片足の欠けた一羽のハトを見ました。原爆の影響がハトにも出ているのかなと考えたことを覚えています。

あの当時、平和祈念公園のあたりには広島一の繁華街が広がっていたこと、その街が一発の爆弾で一瞬にして焼き尽くされたことまで考えが及びませんでした。

二度目に広島を訪れたのは、二年前の夏でした。到着の時刻が夜9時を回っていたからでしょうか。公園の中に静けさが広がる中で、原爆ドームを見ました。崩れた建物は時を止めてしまっているようで、私には黙祷を捧げることしかできませんでした。

かたりべ講演会では、戦争の体験をした近藤明子さんのお話を聞く機会を得ました。4歳の頃の記憶をたどり、私たちに語ってくださった当時の広島。戦争というものが単なる勝ち負けにとどまらないものであることに改めて気付かせてくれました。

話を聞くみなさんの真剣な様子から、近藤さんが語る言葉から学ぼうとする姿勢を感じました。

学年通信第7号でも書きましたが、戦争の体験を直接聞くことは、年々難しくなっています。戦争で多くの命が犠牲になりました。戦後、復興に向けて当時の人々は立ち上がり、今の平和があります。そのことを私たちは語り継いでいかなくてはならないと感じています。



## 「ありがとう」があふれています

先日のことです。貼られている掲示物が曲がっている気がして、画鋲をはずしました。すると、すっと手が伸びてきて掲示物を押さえて伸ばし、画鋲をつけやすくしてくれました。

STが始まる直前、窓を閉めながら廊下を歩いていた時のことです。「先生」と呼ばれ、立ち止まりました。虹が出ていることを教えてくださいました。大きな虹が体育館の北側に出ていました。見落とすところでした。素敵な時間を過ごせました。

小雨が降って来た時のことです。あわてて体育館から走り出て昇降口を上がろうとしたとき、名前を呼ばれて振り返りました。落とされたプリントを届けてくれました。

そんな「ありがとう」が今、学年の中にあふれています。うれしいですね。

みなさんもそんな「ありがとう」を感じたことはありませんか。

「ありがとう」の語源は、「有り難（がた）し」。「めったにないもの。珍しいもの」という意味でした。「ありがとう」が口にできる場面は、めったになかったかもしれません。それでも日々「ありがとう」は、こんなにあふれています。素直な心遣いをこれからも大切にしてください。

名前は記してありませんが、私からも言わせてください。本当にありがとう。



(文責：水野千広)